

新編 新日本語

# 新 日 本 語

(三) 王二贵 编译  
孙凤翔 注释

● 山西教育出版社

# 新日本语

王二贵 编译 孙凤翔 注释

山西教育出版社

〔晋〕新登字 3 号

新 日 本 语

(三)

王二贵 编译

孙凤翔 注释

\*

山西教育出版社出版 (太原并州北路 11 号)

山西省新华书店发行 阳泉市印刷厂印装

\*

开本: 850×1168 1/32 印张: 18.625 字数: 465 千字

1991 年 5 月第 2 版 1992 年 10 月山西第 2 次印刷

印数: 7,001—24,000 册

\*

ISBN 7—80578—087—0

G·87 定价: 6.30 元

## 原书前言

1. 《日本語》Ⅱ是东京外国语大学附属日本語学校以初学日语的留学生为对象而编写的。是在学习了《日本語》Ⅰ、《日本語》Ⅱ之后，继续学习日语的书。

2. 本书是继本校编的《日语发音》、《日语——平假名和片假名》、《日本語》Ⅰ、《日本語》Ⅱ之后编写的。目的在于让学生熟悉日语的一般的现代文。

3. 本书预定在本校全年教程的第三学期里用120个学时学完而编写的。通过从《日本語》Ⅰ到《日本語》Ⅱ的学习，留学生升入日本的大学后，能够获得最低限度的日语学习活动的的能力。

4. 本书由12课组成。采用的体裁有评论、论说、文学作品等，涉及文化、社会、科学、文学等方面。从广泛的范围里选出能够培养熟练的语言能力的作品。

5. 各课分别由课文和新出单词、新出汉字组成。再者，为了便于学习，对于必要的词语，在课文的末尾附有注释。

6. 本书在课文和注释里，提出新单词约2800个。新出单词作为新词归纳在各课的最后。新出单词，因为在《日本語》Ⅰ里，约提出1500个，在《日本語》Ⅱ里，约提出3700个，所以，总共约有8000个单词。

7. 汉字部分，新出现的汉字222个，改变读法的汉字190个，是从常用汉字别表中选出的。各课中提出的新出汉字和改变读法的汉字，分别在每课的最后归纳为“新出汉字”，全书中提出的新出汉字在本书最后归纳为“新出汉字表”。栏外标出的汉字，是新出汉字和改变读法的汉字。新出汉字原样写出，改变读法的汉字在字下划线表明之。各课最后的“新出汉字”，也是新出汉字照样写出，改变读法的汉字下面划线，而且，在已出汉字上划个虚线样的圆圈，以示区别。

汉字，因为在《日本語》I里提出新出汉字350个，改变读法的汉字129个，在《日本語》II里提出新出汉字920个，改变读法的汉字480个，所以总汉字数是新出1492个，改变读法的汉字790个。

8. 在本书采用的作品，注意到尽可能忠实于原著，但从照顾教育的需要出发，也有忍痛割爱删掉的。关于假名的表记、用法，已根据现代假名用法予以统一。关于汉字部分，以常用汉字表、常用汉字改订音训表为基准，但音训表(附表)中的汉字原则上都注了假名。

9. 本书在编辑时，采用的作品，得到了原著者的许可，从内心表示谢意。

10. 本书的编辑工作，由铃木忍负责，在编写过程中，不仅有本校教职员，还得到校外诸位的大力协助。特此说明，以表谢意。

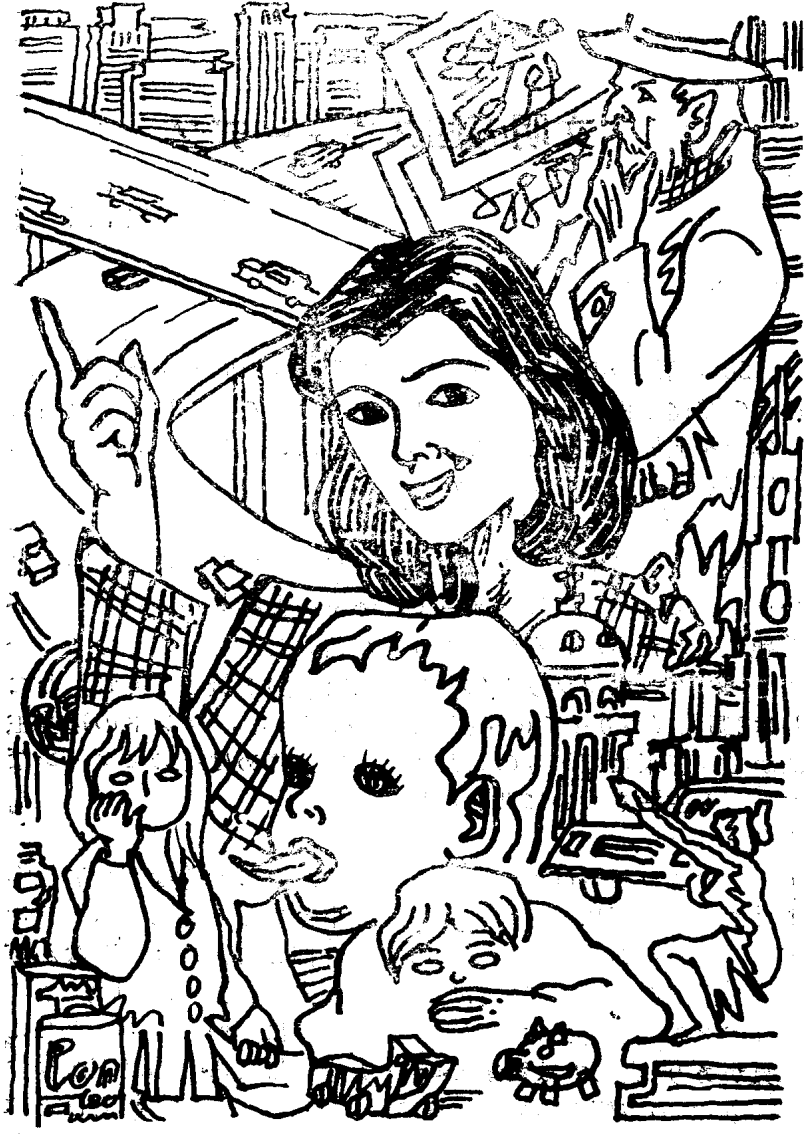
昭和54年9月1日

东京外国语大学附属日本語学校

## 目次

|    |                                       |      |     |
|----|---------------------------------------|------|-----|
| 1  | 文明の国スウェーデン                            | 中根千枝 | 2   |
| 2  | 教養とは何か                                | 永井道雄 | 46  |
| 3  | ことばの意味                                | 渡辺 実 | 72  |
| 4  | 身体に関する言い回し                            | 芳賀矢一 | 96  |
| 5  | ①新聞の役目と社説                             | 長谷部忠 | 118 |
|    | ②社説                                   | 毎日新聞 |     |
| 6  | 機械との共存                                | 高木純一 | 148 |
| 7  | 走れメロス                                 | 太宰 治 | 166 |
| 8  | なんでも見てやろう                             | 小田 実 | 228 |
| 9  | 思想の移植性について                            | 林 达夫 | 250 |
| 10 | 風立ちぬ                                  | 堀 辰雄 | 266 |
| 11 | 科学と人間の福祉                              | 都留重人 | 302 |
| 12 | 現代都市の生活構造                             | 篠原 一 | 332 |
| 13 | 俳句について                                | 山口誓子 | 354 |
| 14 | 短歌の鑑賞                                 | 木俣 修 | 370 |
| 15 | アルプスの少女                               | 石川 淳 | 392 |
|    | 附录: 一、词汇总表                            |      | 417 |
|    | 二、動詞、形容詞、形容動詞活用表、口語助動詞一覽表、<br>口語助詞一覽表 |      | 570 |

|                      |     |
|----------------------|-----|
| 三、新旧假名拼字法対照表.....    | 577 |
| 四、送假名法.....          | 581 |
| 五、東京アクセントの型の一覧表..... | 585 |
| 六、日本と中国漢字字体対照表.....  | 587 |





# 1 文明の国スウェーデン

なかねちえ  
中根千枝

20世紀後半の現在、世界は、生活水準の向上を目ざして、科学の発達と相まって、一路機械化への道を、そして福祉国家への道を上昇している。こうした現象はいったい、人間にどんな影響をもたらすであろうか。

わたしがストックホルムに着いた時、いろいろな国際会議が重なって、ホテルは超満員で、部屋がとれなかった。ちょうど親切な友だちが、その叔母さんが留守だからというので、一人用のモダンなフラット(アパート式住宅)を貸してくれ、わたしは2週間ばかりそこに滞在した。なにしろ、インドの辺境生活から出て来たばかりの時だったので、初めはそのモダンなフラット生活を大いに楽しんだ。

そのフラットはストックホルムの西方の閑静な美しい住宅街にあった。下にデンマーク料理の小さなしゃれたレストランがあって、その横の総ガラスのドアを押して、スマートなかわいい自動式のリフトで6階にのぼる。一分のすきもない、きれいなドアのかぎをあけると、左側に玄関に必要なちよつとした家具があり、真ん中は奥まで1メートル半ほどの幅の廊下がついており、その右側の白いドアをあけると、2メートル四方ほどの完備した台所、次のドアをあけると、ゆっくりしたタイル張り

## 参 考 译 文

# 1 文 明 之 国 瑞 典

中 根 千 枝

二十世纪后半期的今天，为了提高生活水平，整个世界都随着科学的发达，沿着机械化道路，沿着福利国家的道路奋勇前进。这种现象到底会给人类带来什么样的影响呢？

我到斯德哥尔摩时，正赶上各种各样的国际会议同时召开，旅馆里都住满了人，我没有找到住处。恰巧有一个热情的朋友说他叔母不在家，就把一套设计新颖的单身住房(公寓式住宅)借给了我。我在那里住了两个来星期。不管怎样，我是刚过完印度边境生活，起初对这样的新式公寓生活，感到非常快活。

这所公寓座落在斯德哥尔摩市西部一个幽静而漂亮的住宅区。下面有一个小巧考究的丹麦餐馆。推开旁边镶满玻璃的门，坐上小巧玲珑的自动电梯，就可以上到六层楼。用钥匙打开严丝合缝的精致的门，左侧放着几件门口所必需的家俱，正中是一条直通里面、宽一米半左右的走廊。打开右侧的白门，是两米见方、设备齐全的厨房。打开第二个门，是宽敞的镶瓷砖的浴室、洗脸间、厕所。再打开尽头的迎面的门，是一间二十四点七五平

のバスルーム・洗面所・トイレット、そして奥の突き当たりのドアをあけると、15畳ほどの寢室兼居間となっている。居間の正面は全部ガラス張りで、厚地のレースのカーテンがかかっており、その外にはベランダがついている。九月だというのに、スチームが通っており、自由に調節できる。全く快適な一人住まいである。さて、バスに入るときには、水道の栓をひねり、もう一つの熱湯の栓(ストックホルムの新しいビルディングには、水道と全く同じように熱水道が来ているから、お湯など沸かす必要がない。)をひねって、両方から水とお湯が出た瞬間、温度計がぐっと上がって、手を触れずに温度の調節ができる。台所の近代化は言うまでもない。汚物を捨てるにもボタン一つ押せば、ぽっかり大きな穴が地下まで続いている。何でもそこに投げ込めばよいから、世話はない。そして用件はすべて電話ですます。ストックホルムの典型的な生活だ。

しばらくこの快適な生活をしているうちに、何だか自分が機械化され、物質の一部になっていくような気がして、憂ないらだたしさを覚え始めた。ある日、久しぶりにご飯をたこうと思って、食糧品屋に行って米を求めると、1キロほど入った角砂糖の箱のようなもので、真ん中がセロファンで中身のお米がわかるようになっている箱を渡された。何だかお米という感じがしないと思いながら、帰っておなべにあけてみると、どうも機械かなんかですっかり洗ってあるらしく、一粒一粒がピカピカ光って、まるで薬かなんかのようだ。かしいだけれど、水はほとんど透明で、いったい、味があるのかしらと思う。久しぶりに食べるご飯だったので、おいしいような気もしたが、あのピカピカの葉のような粒を連想して、化学薬品のようなあじけなさがしてきた。お米ばかりではない。野菜もそれはそれはきれいに、土の気など薬にしたくてもないようになっていて、またそれを上等の紙で包んでくれるから、土に生えた植物という感じがなくなってしまう。それをまた、ひどく非人間的なフラ

方米的卧室兼起居室。起居室的正面全是玻璃，挂着厚厚的花边窗帘，外面有阳台。虽然刚刚九月，却已通上了暖气，可以自由调节。真是一所十分舒适的单人公寓。洗澡的时候，拧开凉水龙头和热水龙头（斯德哥尔摩新式大厦，安着和自来水管一样的热水管。没有必要烧开水），热水和凉水从两个龙头流出来的瞬间，水温表（水银柱）马上上升，不用伸手试水就可以调节水温。厨房的现代化就更不用说了。倒垃圾只要按一下电钮，一个大窟窿便直通地下，无论什么东西只要仍进去就行了，很省事。办什么事都可以用电话解决。这是斯德哥尔摩典型的生活方式。

过了几天这种舒适生活，不禁觉得自己也被机械化了，成了物质的一部分，开始感到异常的烦躁。一天，想做一顿很久没做过的米饭吃，于是到粮店去买米。售货员给了我一个能装一公斤方糖那么大小的一个方盒子，正中可透过玻璃纸看到里面装的是米，我总觉得有点不象米，回到家里放在锅里一看，啊！好象已经用机器洗得干干净净的，一粒一粒地闪闪发光，简直就和药粒一样。煮过之后，米汤几乎还是透明的，心里暗想到底有没有味儿呢。因为很长时间没吃米饭了，所以吃着也觉得很香。可是一联想到亮晶晶的药粒一样的米粒，又觉得象化学药品那样难吃。不只是米，就连蔬菜也干净极了，没有一点泥土味儿。再加上是用高级纸包装着，就更加感觉不到那是泥土中生长的植物。在这几乎没有人间气息的公寓里做菜，一边透过窗户观看混凝土大厦

ットで、クッキングして、窓からコンクリートのビルディングを見ながら食べるのだから、だんだんやりきれなくなってきた。わたしはインドのにぎやかなバザールで、砂やもみがらがまじっているような米を、路傍で農民から買う喜びをしみじみ懐かしく思ったり、土の香のする日本の八百屋で買うほうれん草やじゃがいもがひどく恋しくなったりした。

インドや日本では、生活水準は低いけれど、人々は決して孤独ではない。機械より人間が氾濫し、人間にとって全く自然な土のにおいがする。ヨーロッパに着いて以来、私はひどく土を恋しく思った。都会のヨーロッパ人は石やコンクリートの家に住み、道は石畳かアスファルト。都会にいと、この地球に土というものがどこへ行ってしまったのかと思う。くつなど1週間みがかなくても少しも汚れないことは、不精なわたしにはうれしいけれど、土のにおいが全然ないということは、農耕文化を基盤とした日本人にはひどく寂しい感じがする。日本にいたときは、東京郊外のどろんこの道を歩かされてぶつぶつ言ったものだ。インドはこれまたひどく、日本より何倍も土くさい所だった。台所の床は土だし、食器をみがくにも土を使う。長距離列車に乗ると、よく女の人が一塊の土を持って乗る。自分のコップやお弁当箱を洗うためである。だからあらゆる所で土を見る。それに比べてヨーロッパは肉とバター・ミルクのにおいだ。牧畜文化という、わたしたちと異なる文化の基盤を持っていることをしみじみ感ずる。ところで、コンクリートの中で、機械のにおいに囲まれたような生活で、彼らは満足しているのだろうか。否である。ストックホルムの人々は、ウィークエンドには必ず車で郊外に出、機械文明からできるだけ遠ざかろうとする。ストックホルムから1, 2時間の郊外には、ちょうど東京郊外の建て売り小住宅のようなものがずっと並んでいる。1軒が2, 3部屋から成り、ひどく簡素なベッドと椅子・テーブル・台所用品・農具があるだけ。そしてみな20坪ほどの庭があり、そこ

一边吃饭，渐渐地就忍受不下去了。我深情地回味起在印度熙熙攘攘的集市上，从路旁农民那里买来带有砂子、稻壳的大米的喜悦，十分怀念在日本菜店里买到的带有泥土芳香的菠菜、土豆。

在印度和日本，尽管生活水平很低，但是人们决不感到孤独。无所不在的是人而不是机械。有一种人们感到自然的泥土气息。去了欧洲以后，我异常留恋泥土。欧洲城市的人住的是石头或者混凝土的房子，走的是石铺路或柏油路。呆在城市里，就不知道这地球上的泥土都跑到哪儿去了。皮鞋一星期不擦，也一点不脏。这对象我这样的懒人来说，是值得高兴的。然而，没有一点泥土气息，对于以农耕文化为基础的日本人来说，却感到十分孤寂。在日本时，不得不走东京郊外的泥土路，常发怨言。印度比日本土气几倍。厨房的地面是泥土的，擦洗餐具也是用土。乘坐长途火车，经常看见有的妇女手里拿着块泥土，用以擦洗自己的茶杯和饭盒。所以到处都可以看到泥土。与此相比，欧洲却全都是肉、黄油和牛奶的气味。深深感到他们具有与我们不同的文化基础，那就是畜牧文化。然而，生活在混凝土建筑中，在充斥着机械气味的环境中，他们是否感到满足了？没有。斯德哥尔摩的人们，一到周末就必定要驱车到郊外去，想尽量远离机械文明。离斯德哥尔摩一、两个小时路程的郊外，如同东京郊外出售的小住宅一样的住宅，鳞次栉比。一套房子有两、三个单间，只有一些极为简朴的床、椅子、桌子、厨房用具和农具。每套房子都有六十六平方米的庭院，人们在那儿种植树木、花草、蔬

に木を植えたり、草花や野菜を栽培して、ウィークエンドを過ごすのである。知り合いになった金髪の、バーグマン①そっくりの顔をした婦人はこう説明した。

「私たちはもちろん水道なんかなくて、水をくみに行く所が遠くて、できるだけ不便な所を選ぶのです。すべてが不便にできていて、わたしたちの労働を必要とすればするほど、わたしたちは大喜びなの。ガスもなくて、まきを集めてお料理できれば理想的なの。」

不便で簡素な田園生活へのあこがれは、ちょうど日本人の自動的に電化された高級アパートに住みたいというあこがれに匹敵する。わたしはここではじめて、わたしがストックホルムでした未開民族についての講演に彼女らがいかに熱狂したかが納得できたような気がする。彼女らにとってどんなにこのウィークエンドが重要なものであるかは、わたしたちの想像以上である。これがなければとても生きていけないほど、重要な1週間のスケジュールになっている。これは全く習慣になっていて、わたしの帰国後、東京を訪れたスウェーデンの学者が、ちょうど土曜の夜に着いて、開口一番、わたしに言った言葉は、「きょうは郊外にいらっしゃるはずでしょう。郊外にいらっしゃる大切なあなたのウィークエンドを取りあげてしまって、心からお気の毒に思います。」わたしはおなかの中で笑いが止まらなかった。毎日どろんこの道のある郊外で、彼らのウィークエンドに使うような家に住んでいるわたしたちの大都会東京の生活は、ストックホルムから来た彼には想像もできなかったのである。

わたしの研究に奨学金を出してくれたE・W財団のプレジデントE女史は、ある日わたしにストックホルムの託児所と養老院を見学していらっしゃいと言って、案内の婦人をつけてくれた。この二つの施設は社会福祉国家として有名なスウェーデンの誇るべきものである。

託児所はストックホルムの郊外の閑静な住宅街にあって、

菜 度过周末。刚刚相识的一位长得和巴哥曼一模一样的金发妇女这样说：“我们当然要选择那些没有自来水管，离取水的地方远，尽量不方便的地方。越是一切都不方便，需要我们动手劳动，我们就越发高兴。如果连煤气也没有，能拣劈柴烧火做饭就理想了。”

他们对不方便而又简朴的田园生活的向往正好与日本人对电气化、自动化的高级公寓的向往相比肩。我这才理解她们为什么对我在斯德哥尔摩做的那篇关于未开化民族的讲演竟有那么大的兴趣。这种周末生活对她们来说是多么重要，实在超出了我们的想象。周末已成为一周重要的日程安排，如果没有它，简直就难以生活。这已经成了习惯。我回国后，一位访问日本的瑞典学者正好星期六晚上来到，他一开口就对我说：“你今天应该到郊外去吧。耽误了你到郊外去的周末休假，我深感抱歉。”我忍不住在肚子里直笑。我们每天都在道路泥泞的郊外住着他们只有周末才住的房子。大城市东京的这种生活，当然是来自斯德哥尔摩的他们所难以想象的。

为我的研究提供奖学金的E·W财团董事E女士，一天邀请我参观斯德哥尔摩的托儿所和养老院，并给我派来一个女向导。在以社会福利国家著称的瑞典，这两项设施是值得骄傲的。

托儿所座落在斯德哥尔摩郊外一个幽静的住宅区内。院内有



建物<sup>しばふ</sup>は庭木のある芝生の庭を持った、ちょっとした普通の住宅の造りであった。案内されて中に入ると、10室ほどあって、それぞれ何歳の部屋というようにきまっていて、たとえば6歳の部屋には、6歳の児童に最も適した絵本・おもちゃ・机・椅子をはじめ、6歳の児童に最適のあたたかい壁の色、じゅうたん・カーテンにまで細心の考慮が払われ、じゅうぶん児童教育のトレーニングを受けた若い女性が、保母として3人ぐらいの児童を専門に受け持っている。一部屋にはたいてい、一人か二人の子供がいた。

現在、ストックホルムの既婚婦人の70パーセントが職を持つといわれているほど、既婚婦人の就職率が高いため、このような託児所の施設がたくさんできている。職を持つ母は、毎日出勤前に車で子供をここに連れて来、一日、帰宅の時までここに預かってもらうのである。

この理想的に完備した託児所の一日の預り料をきいて、わたしは全く驚いてしまった。それは、わたしが当時滞在していた、ストックホルムの駅前<sup>駅前</sup>のホテル代の二倍という高額だったのである。案内の美しい若い保母さんは、7歳の部屋で一人で何かおもちゃをいじっていた子供を指して、

「この子はもう7年も、ここで暮らしているのですよ。」とわたしに言った。その時ふとふりかえった金髪の少年のひとみがなんと寂しそうだったことか。わたしはその人懐っこそうな、そして寂しい憂いの色さえ見える、まつげの長い水色のひとみに、氷の平原にいるような孤独の訴えを見て、胸をつきさされるようだった。この子は、とても自分では言えないけれども、どんなぼろの汚れた服を着ていてもいいから、母のそばにいたいのであろう。幼い子にとって母の愛がどんなに恋しいものか。どんなに文明が進み、社会保障が行き届き、どんなに物質的に恵まれても、母の愛をつくり出すことはできないのである。日本の就職を望む既婚婦人は口癖のように言う、「よい託児所